第 14 回全国知的障害者施設家族会連合会全国大会　新聞掲載記事

神戸新聞　平成 30 年 10 月 25 日

神戸新聞

（第３種郵便物認可）

知的障害者連合会、神戸で大会

家族の高齢化 課題共有

年金や施設の充実 働き掛けへ

障害者福祉の在り方について話し合う「全国知的障害者施設家族会連合会 全国大会ｉｎ ひょうご」（神戸新聞社後援）が23、24の両日、神戸市垂水区のシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開かれた。知的障害者の家族や行政、福祉関係者ら約600人が参加。障害者福祉サービスの現状を学び、問題点や今後望む施策などについて意見を交わした。（貞原加奈）

知的障害者の暮らしを守るため意見を出し合う参加者ら＝神戸市垂水区東舞子町

同連合会などが2005年から開いており、神戸での開催は10年に次いで2回目。24日は「どうする？家族とわが子らの高齢化」をテーマに、参加した施設職員や家族らが、それぞれの取り組みや思いなどを共有した。

母親は「自分も年を取り、子どもを誰に託したらいいのか。家族がみることを前提にすると、限界がある」と不安を打ち明けた。別の家族は「施設で最低限度の医療的ケアを充実させてほしい」と求めた。専門家からは「これからは介護施設でも障害者がいることを前提とした設備や人材配置に変えていかないといけない」といった指摘もあった。

参加者は「障害福祉制度と介護保険制度との一体化、統合の廃止」▽「生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ」▽「福祉職の専門家としての施設職員の育成」などを決議し、国や自治体に働き掛けていくことを確認した。

全国の連合会長も務める由岐透・県知的障害者施設家族会連合会長は「社会福祉のセーフティーネットからこぼれ落ちてしまう人の現実について声を上げ続けたい」と訴えた。

毎日新聞　平成 30 年 11 月 2 日

知的障害者 支援充実を

垂水 家族会が全国大会

知的障害者の家族団体「全国知的障害者施設家族会連合会」の全国大会が10月下旬、神戸市垂水区であった。約600人が参加し、支援制度の充実に向け、国や自治体に働き掛けることを申し合わせた。

知的障害者の福祉の充実に向けて意見交換する参加者＝神戸市垂水区で

「どうする？家族とわが子らの高齢化」と題した討論会では、障害者福祉に詳しい北九州市立大の小賀久教授と埼玉大の宗潔忠雄准教授が司会を務めた。参加者からは「親を亡くした障害者らが適切な医療を受けられる体制が必要だ」との声が上がった。

県内の施設運営者も参加し、利用者の生活の質を上げるためには、職場としての魅力を高めることが欠かせないと主張。職員が障害について理解を深めるため、家族と連携する重要性も指摘された。

全国大会は毎年開かれており、県内での開催は2010年に続いて2回目。連合会の由岐透会長（78）＝神戸市北区＝は「全国のどの施設でも良質なサービスを受けられるよう、家族と意見交換したい」と話した。【黒詰拓也】